

座談会：文化センターの思い出

い面もあります。演劇をする場合、中・小ホールがないのですよ、津山には。だから、舞台経験を積んでいく場が実は津山にはないのです。ですから、なかなか育っていかない。

森元 全くその通りです。僕は人形劇団を30年ぐらしまして、ここでは敢えて大きな舞台にしないとできない。公民館では間に合わないし、おおごとになってしまう。それでも素人の1時間ほどの劇に1,000人ぐらい入ってね。

小林 外にも長い列ができましたね。

森元 アマチュアですけど、急きよ2回公演。会場費は少し安くしてもらいましたけど。

平生の練習場所がない。公民館だったらすぐ時間が来る。創造についてはものすごくやりにくかった。その頃、調べたのですが、北海道に公立の人形劇団がありました。そこには役所の中に好きな人がいらっしやったのでしょう。そこの市長の理解が得られて、24時間使えるような拠点ができた。これはうらやましい。ものづくりをしていると、夜10時が来たからといって、切り上げられない時がある。こういうのは、作ったことがない人はわからないです。

角野 津山って文化が栄えてほしいと僕は願っているから、そういう環境を応援してあげたいと思います。昨年「しもやけライオン」をやらせていただいて…。

神田 あれ、良かった。涙が出ました。

角野 私はピエロ役で、やりながら泣いていたのですが、実は2000年に初演をやっていて、絶対もう一度やりたかった演目。で、14年ぶりにやったんですね。そしたら、アンケートの中に、ある女性から「初演に私は一人の女性として観させてもらい、今回は子どもを連れて親子で観賞。とてもやさしい気持ちになれました」と感想が書いてあって、これが大事かなと思いました。

—— 今後、津山文化センターはどうあるべきでしょう。

皆さんのご意見をお聞かせください。

小林 スポーツでも文化でもそうですけど、すそ野があって頂点がある。高い頂点をめざすためには広いすそ野が必要で、そういう意味で、津山文化センターは市民が使いやすい施設でなくてはなりません。

古くてもより工夫をして活用してほしい。それから昔

は公演が終わったら必ず反省会というか、交流会を持ったものです。何をしても終わったらちょっと集まって、どうだったか検証する必要があります。俳優さんたちも言えば残ってくれますよ。反響が聞きたいわけですから。そういう仲間づくりをアマプロ言わずに作っていくと盛り上がるはずですよ。

角野 劇団四季が津山に初めて来たとき（「王子とこじき」2002年）、劇団四季を呼ぶ会というのを作って、その時にスタッフ証をいただいて、一緒にお手伝いさせていただいたのです。自分の人生の中でもすごく楽しい思い出ですが、プロと一般人が交わる機会が増えていけばいいなあと思いますね。

正直演劇とかには使いにくいホールです。でも、プロが来たならそれなりに上手にやっちゃうんでね。僕ら、そんな贅沢言ってる場合じゃないよと、気付かされるわけですよ。ですから、この不便さを生かして、市民の憩いの場としてあり続けてほしいです。

八木 文化センターが津山の文化の拠点という役割は十分に達成していると思うし、これからはずっとそうあり続けてほしいです。そういった意味で、この建物は大切に使っていかなくちやと思う。例えば、四国の金丸座なんか古い建物が残っていて、そういう形でここが残るように保全管理をしっかりとさせていただきたいと思います。また、本格的な演劇ができるのはここ文化センターの舞台だけだと思うので、そういう芸術的な舞台をもっと観たいと思います。先ほど言われた「呼ぶ会」なんか市民を巻き込むという意味ではいいし、そういうやり方をして市民の関心を高め、すそ野を広げていけばいいのではと思います。レストラン城がなくなって久しいですが、ちょっとしたサロンのなスペースはぜひ作って欲しいですね。

森元 備品にしても改修にしても、実際に使っている人の意見が通りにくいと感じています。あまり使ったことのない人が計画を立ててもうまくいかない。聞く耳を持つか持たないかで、全国的にも市民会館の在り方は雲泥の差になっています。50周年を機に新たにスタートラインに立って、市民の声を十分反映させてやっていかなければなりませんね。 (終)



▲ 大ホール客席から緞帳のかかった舞台を望む



▶ ヨコヤママコのパントマイム



▲ きんちゃい座ミュージカル「しもやけライオン」
第9回津山国際総合音楽祭 2014年10月19日